

日本アメリカ史学会第8回（通算36回）年次大会プログラム

9 月 17 日 (土)	12:00~13:00	幹事会 E509 会議室	
	13:00~	受付開始 1階エントランスホール	
	14:00~ 17:00	<b>シンポジウムA 「社会の革新とキリスト教」 C201 教室</b> 報告： 石川敬史（東京理科大学） 「ジョン・アダムズにおける共和主義とピューリタニズム」 横山和加子（慶應義塾大学） 「《グアダルーペの聖母像出現の奇跡》の真否をめぐる論争— 19世紀末メキシコ歴史学とホアキン・ガルシア・イカスバルセタ」 寺田由美（北九州市立大学） 「フランス・ウィラードと社会的福音」 コメント 山本貴裕（広島経済大学） 司会： 金井光太郎（東京外国語大学）	
	17:05~ 17:50	総会 C201 教室	
	18:00~ 19:30	懇親会 厚生会館	
9 月 18 日 (日)	9:30~12:00	<b>自由論題</b> C202教室, C203教室	
	セッションA C202教室	9:30 ~10:05	二瓶マリ子（東京大学・院） 「スペイン領期テキサスでのメキシコ独立運動と米国（1810~1813年）」
		10:05 ~10:40	宮下敬志（立命館大学） 「演出された『文明化』—19世紀末アメリカ先住民教育における変身写真と変身パレード」
		10:50 ~11:25	岡田泰平（成蹊大学） 「1930年代フィリピン人暴動とフィリピン政治エリートの対応」
		11:25 ~12:00	川浦佐知子（南山大学） 「『語り』に見る歴史記憶—ノーザン・シャイアンの集合的記憶の表象と継承」 司会： 佐藤円（大妻女子大学）
セッションB C203教室	9:30 ~10:05	坂本辰朗（創価大学） 「アメリカ歴史学会における女性委員会の成立」	
	10:05 ~10:40	武市一成（法政大学・院） 「民主主義を映す鏡像としての「松本家」—A Brother is A Stranger (1946) の考察」	
	10:50 ~11:25	南修平（都留文科大学・非） 「ニューヨーク港湾地区をめぐる権力—国際港湾労組（ILA）の盛衰が示すもの」 司会： 千葉浩美（福岡女学院大学）	
	13:00~ 16:00	<b>シンポジウムB 「伝播する革命とアメリカ」 C203教室</b> 報告： 樋口映美（専修大学） 「アメリカ南部の奴隷制秩序形成とハイチ革命」 田中きく代（関西学院大） 革命とフォー 梅崎透（フェリス女学院大学） 「1968」—ニューヨークにおける2つの大学「革命」」 コメント： 肥後本芳男（同志社大学） 司会： 竹中興慈（東北大学）	
13:00~ 17:00	<b>シンポジウムC 「冷戦期アジア・太平洋地域におけるアメリカ合衆国の軍事=文化的プレゼンスをめぐる」(仮) C202教室</b> 報告： 土屋由香（愛媛大学） 「広報文化外交としての留学—ガリオア留学「オリエンテーション映画」（CIE映画）に焦点を当てて」 許殷（高麗大学） 「冷戦期におけるアメリカ合衆国の地域社会開発政策と「自由世界の市民」育成—韓国事例を中心に」 池上大祐（福岡大学・非） 「冷戦初期におけるアメリカ合衆国のマイクロネシア統治政策と「自治」」 コメント： 菅英輝（西南女学院大学） 司会： 森丈夫（福岡大学）		